

## 第1回 地質調査総合センター研究奨励賞について

片山泰樹氏（地圏資源環境研究部門）の『地下で発見！ゲノムが膜で包まれたバクテリア』が受賞

産総研の第5期中長期目標期間において、広報活動は産総研の経営方針における1つの大きな柱として掲げられている。研究企画室ではこれまでに研究成果のプレスリリースを奨励し発表をサポートすることで、地質調査総合センター（GSJ）で推進されている先端的研究成果の社会発信に努めてきた。それをさらに加速するため、今回、総合センター長によるGSJ研究奨励賞を設置するに至った。今回のGSJ研究奨励賞は、2020年1月～12月にGSJで発表した“プレスリリース”および“主な研究成果”の中から、社会課題の解決や当該学術分野に大きな影響を及ぼすことが期待される研究を選考基準として、研究企画室メンバーで構成される選考委員会により候補を選出し、総合センター長により決定された。記念すべき第1回のGSJ研究奨励賞は地圏資源環境研究部門の片山泰樹氏による『地下で発見！ゲノムが膜で包まれたバクテリア』が受賞した（写真は授賞式の様子）。受賞理由は、「GSJは天然ガス資源の効率的な利用や資源量の正確な評価に向け、生命工学領域との分野融合により、地下微生物の活動を調べている。本研究は分類学において最上位階級にあたる『門』レベルで新しい細菌の培養に成功し、新門の学名“Atribacterota”を提案した点で当該学術分野において重要な成果を創出した。また、本細菌は原核生物であるにも関わらず、真核生物の特徴であるはずの核膜のような細胞内膜を持つことを発見し、原核生物の定義を変えうる点で教科書を書き換えうる歴史的発見と言える。今後は本細菌が多く生息する地下環境の天然ガス資源の形成過程に果たす役割の解明に期待する。」。また、プレスリリース後には産総研公式Twitter等で多くの反響を呼んだ。当該受賞研究の詳細な内容についてはGSJ地質ニュースVol. 10, No. 2, 3を参照して頂きたい。

また、今回のGSJ研究奨励賞の選考において、片山氏の研究だけでなく若手研究者による他の研究も十分受賞にふさわしい研究成果であることを感じた。例えば、地質情報研究部門の羽田裕貴氏の『「チバニ



写真 理事室にて矢野（前）総合センター長より賞状の授与

アン」の地層から明らかになった直近の地磁気逆転の全体像』は「千葉セクション」の国際標準模式地の認定に大きく貢献し、当該分野に大きなインパクトを与えた研究であった。また、地質情報研究部門の宮川歩夢氏の『西日本で初めて大規模な大地の反転構造を発見』は重力データと独自開発した技術で明らかにした伊勢湾沿岸域の地質構造から1945年三河地震の発生メカニズムに関する知見を得るなど、学術面・防災面ともに価値の高い研究であった。その他の研究も社会的関心を得る優れた研究成果であり、GSJが推進する研究の質の高さを実感した。GSJ研究奨励賞の設置によって、今後、若手研究者を中心にプレスリリース等による研究成果発信がますます促進されること、またGSJのインターナルコミュニケーションの向上に役立つことが期待される。（研究戦略部研究企画室 眞弓大介）